



# 知覚-遂行活動における身体性, 状況性, 即興性

人文科学系・人間科学領域

天ヶ瀬 正博

教授

AMAGASE Masahiro

修士(文学)(大阪市立大学)

■研究キーワード 生態論的アプローチ, 社会-文化的アプローチ, 知覚, 身体性(embodiment), アフォーダンス

■主な所属学会 日本心理学会, 日本発達心理学会, 日本認知科学会, 関西心理学会

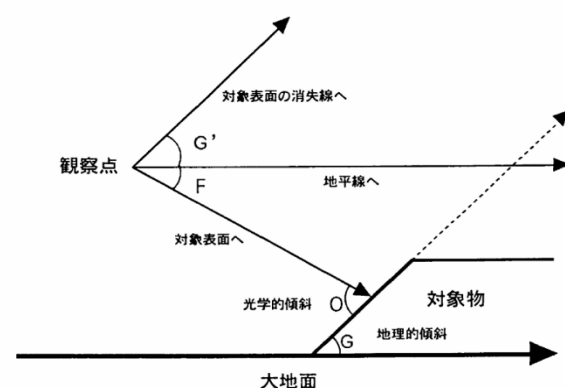
■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.88c731a41dcdc557520e17560c007669.html>



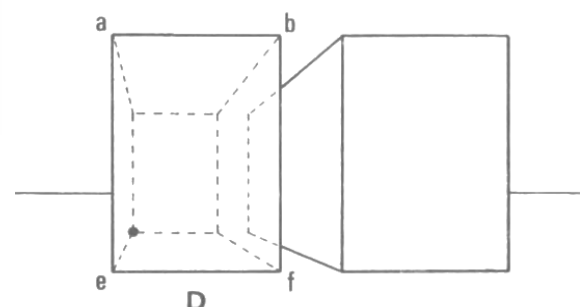
研究者総覧

## 研究概要

- 眺望からの地理的情報の抽出と定位, そして, 環境の再帰構造(入れ子構造)によるナビゲーションの研究(旧来からのテーマ)
- 自己中心座標(観察者中心座標)から他者中心座標(物体中心座標)への「変換」の研究: 身体運動, 身体イメージの投入もしくは言語による「変換」の研究(旧来からのテーマ)
- 概念と意味の身体的・感覚的・知覚的基盤(活動基盤)の研究(旧来からのテーマ)
- 生態学的知覚論による「意味推定」(記号接地)の研究: 関係フレームに基づく即興的な発話と「共同知覚」としてのコミュニケーション(新規のテーマ)



大地面上の身体(視線と動作)による、物体表面の配置の身体的知覚(天ヶ瀬, 1993, 1995)



## アピールポイント

大学生時代(1980年代)に左右反転メガネと逆転メガネへの長期的な順応実験(1週間から2週間)の参加者となり、また、他者の動作に対する新生児の模倣を研究して以来、知覚-運動協応の問題から、認知における身体性や認知の共同性について検討してきた。空間認知研究においては、「認知地図」という内的表象を仮定せずに、既知の環境に対する定位とナビゲーションを説明する枠組みを研究してきた。さらに、奈良女子大学附属小学校における教育実践の研究開発に関わり、「児童中心」と「学習即生活、生活即学習」を理念とする経験主義的な教育を継承・発展させる取り組みに参加してきた。これらすべてが、現代における最先端の認知科学、人工知能研究、教育実践、発達支援に貢献すると確信している。さらに、心理学がとってきた説明様式(内的表象説など)の問題と心理学の本来的使命を文化的、社会的、歴史的に問い直し、心理学が社会に及ぼす影響を倫理的観点から批判することを絶えず行っている。